No.153
2007.
3.31

岐阜の博物館

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
http://www4.zero.ad.jp/gkenhaku/

岐阜県博物館協会に期待する

光記念館長　加藤　郁乎

近年、経済は好調だといわれていますが、都会と地方ではまだまだ格差があるようです。同時に博物館をめぐる情勢という事では、一部の美術館・博物館を除き、指定管理者制度の導入や博物館への評価、予算、人員の削減など厳しい状況は未だに変わりありません。

更に、いじめ、自殺など、教育に関しての問題は大きな社会問題となっており、加えて、家庭崩壊、教育崩壊、高齢者問題、子供たちの学力低下、青少年の犯罪、環境破壊など問題は山積しております。

そのような中で、社会教育施設、生涯学習施設、そして観光にも大きな影響がある、美術館・博物館にも教育的配慮が多く求められるようになっています。

ところで、日本は約2000年に渡り、独自の文化を育んできました。これは、世界にも例のないことで、その中から万葉集や源氏物語、日本画等多くの伝統文化が連綿と受け継がれてきました。

日本には、古来より自然と共に生きるという考え方がありましたが、今や、科学や技術に偏った弱肉強食、優勝劣敗の考え方だけでは人類は滅びるかもしれません。自然と共に生きるという日本人が培ってきた文化や思想は世界に役立つものと思われます。

論理とか合理性だけでは限界が来ますが、礼節、躾、思いやり、誠実、責任感、親切、質実剛健等日本の精神性は世界に誇り得るものです。こうした日本の精神、文化を継承、伝承する事も教育の一つでありましょう。文化継承の精神の涵養が大切なのであります。

また、博物館には博物館の使命があります。資料や情報を過去・現在・未来に繋ぐ大切な機関です。これらは時代が変わっても守らなくてはなりません。そして博物館は、時代が求めるものをすばやく察知してその期待に応えることもまた必要であります。

岐阜県には美濃地方、飛騨地方という独特の文化があります。岐阜県内の博物館同士が互いに協力して資料の相互貸借、情報の提供、教育普及活動、施設案内などをしていく必要があります。

今後も若宮会長を中心に博物館協会員が更に一体化し協力体制を確立する事によって、県内の博物館が元気になるものと確信しております。

当館も私立美術・博物館乍ら県・市教育委員会指導の下、岐阜県博物館を手本に展示のみならず教育普及にも力を入れて参りました。

それは、高山市と連携した土曜教室、小中学校への出張美術館、高齢者社会に対応する回想法を中心としたアウトリーチ活動などの形となり、微力乍ら地域に貢献できるよう努力して参りました。その中で感じます事は、内容も大切ですが、教える側・伝える側の人間性が最も大切であるという事です。

最後に私事で恐縮でございますが、平成18年8月1日より光記念館の館長に就任致しました。永年日本の文化に携わって参りましたが、館長の経験は始めてでございます。先輩諸氏の変わらぬご指導の程宜しくお願い申し上げます。

第31回東海三県博物館協会研究交流会報告

期　日：平成18年11月14日(火)～15日(水)
会　場：煥章館
参加者：64名

晩秋の候、第31回東海三県博物館協会研究交流会が、岐阜県高山市の煥章館（高山市図書館）で開催されました。

煥章館は以前、小学校、市役所と使用され、その後明治初期にあった「高山煥章小学校」にちなみ、フランス風建築様式の往時の外観を再現し、煥章館と名付けられ高山市図書館となりました。

始めに研究交流会開会にあたり、岐阜県博物館協会　若宮会長よりご挨拶を頂きました。

次に、今回のテーマ「地域文化と公共施設」について、岐阜県現代陶芸美術館　板本館長より基調報告を頂きました。

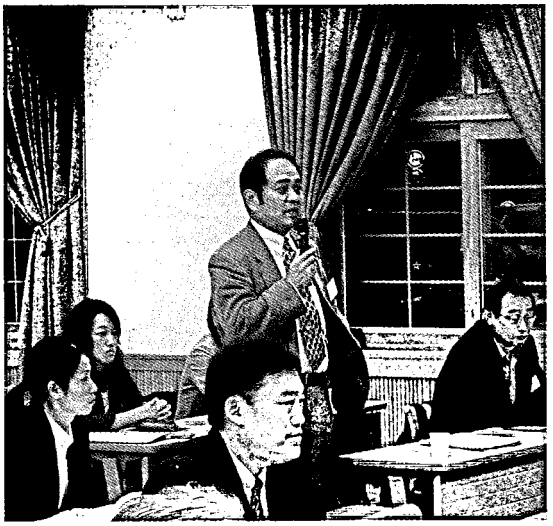
その内容は、まず地域文化について地域の歴史・文化を伝える文化財は、その地域の住民が自慢するようにならなければ他の地域の人たちに対してのアピールにつながらない。文化財はかけがえのないものであるから、しっかりとした施設に預けられ、研究者によってその価値が再評価されると、地域の文化財が観光と結びついてくると述べられました。

また、公共施設とは、その地域の住民にとって異物であると考える。だから、本来異物である公共施設がその地域に溶け込むためには、そこに働くスタッフが、いかにその地域の住民と数多く顔を合わせるかにかかっている。現代陶芸美術館では、お客様が二度キョロキョロしていたら、不安を抱いていらっしゃるから積極的に声を掛けられているそうです。

これからの博物館・美術館は、興行的要素を限定的に位置付け、地域文化の守り手として、各館がその機能を明確にした上で、日常活動を再構築すること。そして、地域に密着し、地域の人たちに気軽に楽しく利用してもらうことが今求められているとお話下さいました。

続きまして、各県の事例発表が行なわれました。

最初に、愛知県　七宝町七宝焼アートヴィレッジ　小林課長補佐兼学芸係長より「地域博物館と公共施設　―愛知県博物館協会職員等研修会より―」についてお話を頂きました。



まず、昨年開催された愛知万博により周辺の美術館・博物館が受けた影響について、入館者数の増減データをもとに状況報告がありました。

次に、愛知県博物館協会では、本年10月19日～20日「地域に根ざした博物館活動のために」というテーマのもと、県内3県からの事例発表による研修会が実施されました。この内容が本会のテーマに通ずることも多いとのことから、わが町を誇れる場所にするために、歴史・文化観光ボランティアの養成を行っている海部郡蟹江町。市町村合併と収蔵資料、消える町の名前をどこに残すのかについて豊田市。伝統工芸を伝える場として、七宝焼アートヴィレッジ開設までの歩みについて海部郡七宝焼町。それぞれの事例についてご紹介下さいました。

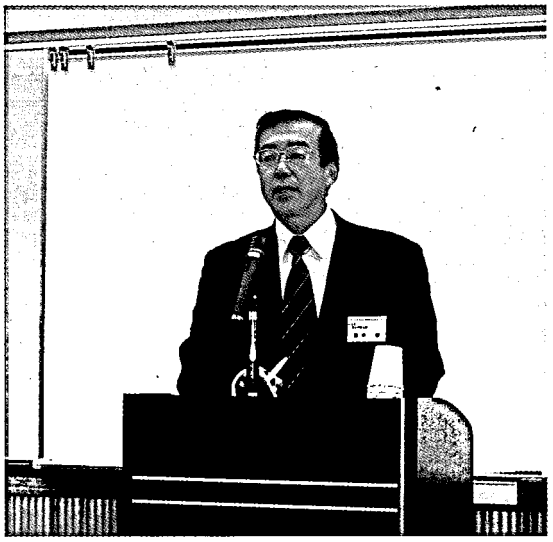
続いて、三重県　斎宮歴史博物館　松田主幹より「地域文化と公共施設　―斎宮歴史博物館の現状と課題―」についてお話を頂きました。

斎宮歴史博物館では、地域との連携を計る為に地域住民による展覧会参加やボランティアガイドの育成を行ない、町の行事への参加・町内の学校へ出前授業や公開講座を開催されています。史跡は、今までの発掘調査結果を活かし、現地説明会・体験発掘・バックヤードツアーを行い、より利用し易いようにと史跡整備検討委員会を創設されました。

今後に向けて、文化遺産である史跡斎宮跡を核としながら、多様な主体が、そのエリア内にある歴史的資源や自然資源をどのように地域づくりに活かし、町の活性化を図っていけばよいかを検討していこうと、「明日の斎宮を考える会」を創設されました。さらに、自由な意見・提案を集めるために、会合の内容をまとめ「かわら版」をホームページに掲載されています。その他にも、地域文化の掘り起こしと保存・活用や観光振興策等、積極的に取り組んでいきたいとお話し下さいました。

最後に、岐阜県　高山市教育委員会　田中文化財課長より「城下町高山の未来設計」についてお話し頂きました。

高山には多くの文化施設があり、高山市から美術館・博物館を作りたいと要請しなくても、県や民間が積極的に作られたので、市町村合併があっても影響がなかったそうです。



これは、今後の美術館・博物館の未来へ向けてのひとつの形ではないかと述べられました。

また、城下町高山の未来設計として、新文化政策の景観法を用いて城下町と歴史街道の景観を守り、資料館は街道の特性や集落の特色を研究していく。そして、学芸員は既存の資料を今後に伝えていくために、保存技術を学んでいく必要があるとお話下さいました。

各県の発表が終り、質疑応答では闊達な意見交換の場となり、内容の濃い大変有意義な内容となりました。そして、次回開催県である三重県の鳥羽水族館中村館長よりご挨拶を頂き研究交流会が閉会しました。

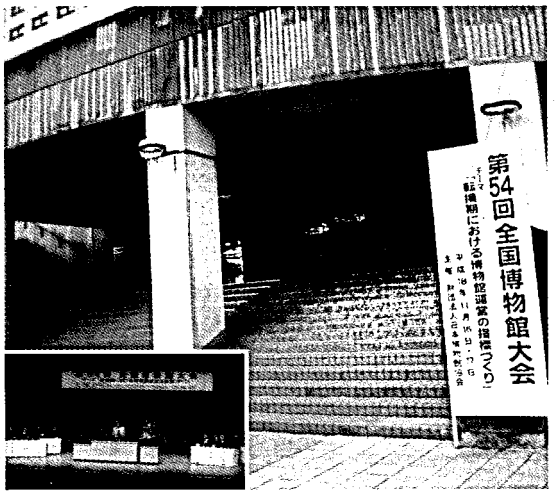
また、第二日目は参加者の希望による飛騨地域の会員館・園等の視察が行なわれました。30人の方が高山旧市街地(19人)、高山郊外（7人）、フリー（4人）の3コースに分かれて参加され、充実した研究会が終了し、帰途につきました。

（機関紙委員　光記念館　吉井隆雄）

第54回全国博物館大会に参加して

期　日：平成18年11月16日(木)～17日(金)
会　場：長崎市市民会館

長崎市はキリスト教布教の地、鎖国時代の開港地、また原爆被災地として全国からの修学旅行生や海外からの訪問者も多い所です。私も何度か訪れていますが、訪問の度に変わりゆく長崎市内の雰囲気を味わってきました。今回は指定管理者制度となり全国的にも注目されている開館１年を迎えた長崎県美術館と長崎歴史文化博物館の見学も楽しみに大会に参加しました。



第54回全国博物館大会は平成18年11月16日から二日間にわたり長崎市市民会館にて行われました。大会テーマは「転換期における博物館運営の指標づくり」。全国から約４百名の参加者があり、本県からは若宮会長、榎本副会長と私の３名が参加しました。

開会式では日本博物館協会の会長であり大会会長の竹内誠江戸東京博物館館長の挨拶に始まり、文部科学大臣、長崎県知事、長崎市長からの祝辞が続きました。次に顕彰ならびに棚橋賞の表彰式が行われました。永年の該当者44名、寄附の該当者１名で、残念なことに東海3県からの表彰者はいませんでした。棚橋賞にはアイヌ民族博物館長の中村齋氏、琵琶湖博物館の青木伸子氏、北村美香氏が表彰されました。

続いて行政報告として文部科学省と文化庁から話がありました。博物館振興施策の概要、博物館登録制度の在り方等の検討協力者会議、こどもの文化芸術活動の充実、国立新美術館開館などの話でした。

記念講演は「イギリス博物館における評価」と題して英国博物館協会理事長マーク テイラー氏の話を聞きました。変革を迫られている英国博物館の状況とその根底にある要因と目指している方向についての内容でした。博物館の利害関係者はどのような人で、博物館は何をどのように提供できるのかという問いかけから始まって、英国の博物館の定義の変遷なども含んだ話でした。

シンポジウムでは「転換期における博物館の指標づくり」について、協会の指標づくり委員会委員から現在検討中の報告がなされました。評価は時代の要請ではあるが、評価のための客観性の高いシステム構築の必要性とか、多様な博物館のそれぞれの独自性を尊重しながら公益性と多様性の確保を併せ持つ評価システムの構築などの話がありました。

二日目は公立、私立に分かれてパネルディスカッションが行われ、公立部会に参加しました。横浜市歴史博物館の前沢氏が管理委託制度から指定管理者制度への移行の現状と問題点の報告があり、長崎県文化・スポーツ部長藤氏からは長崎歴史文化博物館の指定管理者制度導入の経緯と運営の現状が報告されました。両館とも順調な滑り出しをしているだけに、経済的な効果や県民サービス向上が見込まれ、さらに資料収集や保存、調査研究など博物館としての働きも保たれていることが伝えられました。直営も管理委託も指定管理者制度もメリット、デメリットがあり、制度改革には慎重な検討が必要だと思いました。

全国博物館大会決議のあと長崎県美術館と長崎歴史文化博物館を訪問しました。建物など一新しての開館だけに館内はきれいで、展示や機器にも工夫がなされており、来館者を満足させる館となっていました。平日にもかかわらず両館とも賑わっていました。

大会に参加して大きく動いている博物館を取り巻く状況を感じることができました。

（岐阜県博物館　古川和明）

第65回岐阜県博物館協会会員研修会報告

期　日：平成18年10月28日（土）
場　所：みのかも文化の森／
　　美濃加茂市民ミュージアム
参加者：24名

市民と連携をはかりながら博物館運営を進めていくことが、現在の博物館をとりまく課題となっています。今回の研修では「ボランティアの可能性を広げる」をテーマとし、市民参画の今後のあり方を考える場としたいという目的で研修会が開催されました。

まず最初に、研修委員会委員長の岐阜県現代陶芸美術館の榎本徹館長から挨拶があり、ボランティアのみなさん自身が、美術館そのものを楽しむことの大事さ、そして館とボランティアの間に立ついわゆるコーディネーターと言われる人たちの必要性についてのお話がありました。

ディスカッションの始めに、会場館でもある美濃加茂市民ミュージアムのボランティアの活動状況と課題について館職員の西尾円さんから報告がありました。最近は、館側の事業の「協力」にとどまらず、ボランティア自身による自主企画講座や調査と展示など、新しい動きが出てきていることの話がありました。課題としては、高齢化のこと、新しく参加する人たちへの配慮のこと、メンバー全体の連帯感を感じてもらう工夫など、の話がありました。

引き続き、県内でボランティアを導入している館のボランティアのみなさんからそれぞれの活動状況を報告していただきました。

美濃加茂市民ミュージアムのボランティアの川尻かおるさんから、展示室内の「小さな円空展」を通し、自分たち自身が企画した展示、それに関係して市民も巻き込んでいく事例の報告がありました。同じく水谷武彦さんからは、子どもたちの学習をサポートするボランティアとして陰でささえる活動であるが、子どもの「ありがとう」の笑顔がとてもうれしいと感じている、との話がありました。

岐阜市歴史博物館の津田裕子さんから、館内だけでなく館の外までも歴史の案内をするようになり活動が広がってきていること、生涯学習の場としてボランティアの目的意識をしっかり持つことの大事さを感じているとの報告がありました。

岐阜県淡水魚園水族館の宮崎貞子さんから、ハンズ・オンの実施、バックヤードツアーの開催など直接来館者に接する業務に充実感があること、学生など若い年齢層のボランティアが多いという話をしていただきました。

中山道広重美術館の足立弘行さんから、館内サービス、展示ガイド、展示室の監視、施設管理、ポスターの発送作業など幅広い範囲にわたってボランティア活動をされていることの紹介がありました。

岐阜県美術館の所良男さんからは、現在は多くの活動を通して私たちサポーター（ボランティア）の必要性がかなり高くなってきたと認識されてきたこと、活動の重要な柱である自分達のレベルを上げ楽しみを増やすという研修が充実してきたことの話がありました。

自由討議の中では、ボランティアの組織や内部での人間関係のこと、メンバー内での意識や関わる気持ちに温度差のあること、そして活動に対する有償・無償のことなど、さまざまな問題や悩みも出されました。

この研修をとおし、博物館のボランティアは、活動に広がりをもちながらたえず変化しつづけていくことの大切さを感じました。

（美濃加茂市民ミュージアム　可児光生）

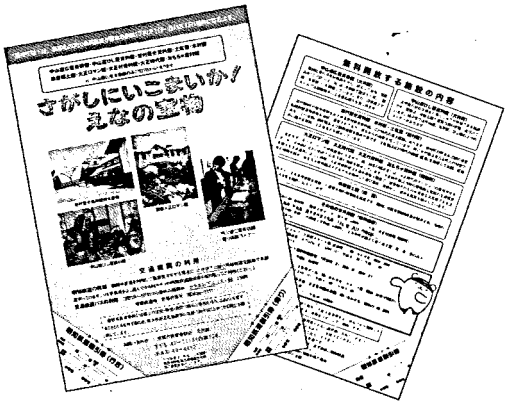
40周年記念事業進捗状況

地域博物館活性化支援事業（東濃地域）青少年市内文化施設等無料開放事業

地域博物館活性化支援事業は、県内を５つのブロックに分け、地域の会員のニーズに応じた多様な博物館活動の支援を行うものであります。今回は、東濃地域の事業内容について紹介します。当地域では、中山道広重美術館（代表者）、岩村歴史資料館、日本大正村が主体となって事業を企画実施しました。

①事業目的　青少年が地域の文化施設等に気軽に接する機会を提供し、文化活動に関心と理解を得るとともに青少年の健全育成の一助となることを目的としました。

②事業内容　恵那市の小中学生が、夏休み期間中（７月21日～８月31日）に市内の10の有料施設を利用する場合は無料としました。また、市内の小中学生が期間中、施設見学のために第三セクターの明知鉄道を利用する場合は運賃を半額としました。事業の広報用チラシ「さがしにいこまいか！えなの宝物」を8,000部作製し、市内の小中学校及び各施設に配布しました。なお、事業の実施にあたっては恵那市教育委員会の指導・助言を受けました。



③事業効果　青少年が夏休み期間中に文化施設を気軽に利用できる事により各施設への理解や利用度が高まりました。

	18年度（人）		17年度（人）	
	こども	総計	こども	総計
広重美術館 7/21～8/31	221	1,900	194	1,386
岩村資料館	628	1,438	584	1,198
大正村共通券 7/1～8/31	825	7,100	—	—

ガイドブック作成事業

岐阜県美術館

これまで博物館・美術館の紹介冊子は観光の振興目的等で地域別や分野別など様々な形で発行されていますが、100館を越える資料を掲載しているものは近年ありませんでした。現在、岐阜県博物館協会に登録されている施設は132館ですが、もっと、身近にある文化遺産や知的財産を有効活用し、訪れる旅行者のためにも広く認知していただきたいということでガイドブックを発行することになりました。

資料収集を開始して直接各館の方と連絡を取らせていただくと、これまでの博物館協会の歴史の中で現在各館が直面している問題を感じました。博物館活動興隆の流れで開館した多くの施設で現在高齢化による後継者不足と来館者の減少に困っているのです。諸外国では私立館を含めた保存、公開を義務付ける国家的政策に守られていることに比べると、日本ではブームから15年以上が過ぎ自力で生き残ることが難しいのではないかと感じ、こうした支援が不可欠であると感じるばかりです。

表紙は貴重な岐阜県の財産の資料であることを伝えるファイルのイメージをデザインしたものです。

（岐阜県美術館 堀川厚則）

支援団体・企業紹介コーナー

大垣共立銀行

大垣市郭町3丁目98
TEL 0584-74-2111 http://www.okb.co.jp

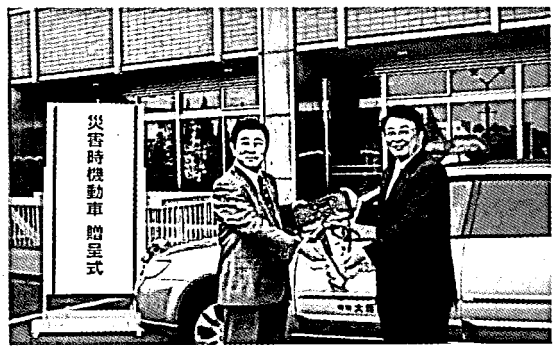
「おおがききょうりつぎんこう」。この長い名前の由来からご紹介させていただきます。「大垣共立銀行」は、その前身である第129国立銀行の業務を継承して、明治29年3月に設立されました。昨年でちょうど110年。その昔、設立のときにあった話が大垣共立銀行の名前の由来となっています。

明治の時代、国立銀行の成り立ちと言えば、「士族による士族のための銀行」というのが一般的でした。これを、士族だけではなく「農」・「工」・「商」も共に協力じて銀行を設立しよう。そのような想いで誕生したのが、「大垣共立銀行」なのです。

都市銀行と区別して、地方銀行と呼ばれる私たちの多くは、その地域の社会や経済など地域の力で立ち上げていただいたものです。因みに「共立」という名称が銀行の名前に付けられた例としては、大垣共立銀行のほかに、大阪共立（大阪）と高岡共立（富山）のふたつがありましたが、大阪共立は三井銀行（現、三井住友銀行）に、高岡共立は北陸銀行に合併されて、現在では大垣共立銀行が唯一の存在となっています。

地域に生まれ、地域と共に歩んで、今年で111年目。大垣共立銀行にとって最大の使命は、豊かな地域社会の創造に貢献することです。銀行業という業務を通じて地域経済の活性化を考えることはもちろん、地域社会のひとりとして、さまざまな社会貢献活動に参加するほか、スポーツ、そして文化活動のお手伝いまで。

大垣共立銀行は、これからも地域にお役に立てるよう、私たちにできることから考え、そして、実行してまいります。



岐阜県へ災害対策車両を寄贈。
昨年は創立110周年を記念して、地域にさまざまな恩返しをさせていただきました。

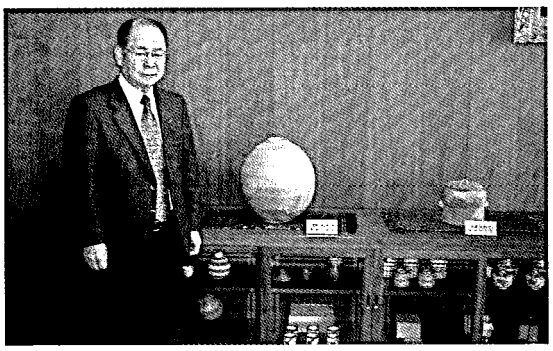
財団法人 とうしん地域振興協力基金

多治見市本町2丁目5番地の1
東濃信用金庫内（総務部総務課）
TEL 0572-22-1151 FAX 0572-24-4482

東濃信用金庫は、中小企業の発展及び地域住民の豊かな暮らしに寄与することを目的とし、加茂・可児・多治見・土岐・瑞浪・愛知県を含め59店舗が営業を展開しています。また、金融サービスの提供のみにとどまらず、文化、環境、教育、福祉といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化にも積極的に取り組んでいます。

文化活動においては、平成2年に地域産業の振興、社会福祉の向上、生活環境の整備、社会文化活動など、地域活性化のための助成を目的として、(財)とうしん地域振興協力基金が設立されました。この不況のなかでも毎年20件以上の助成があり、その内容は多義にわたっています。

一方地場産業への貢献として、昭和62年から美濃陶芸作品永年保存事業を行っています。この事業は、美濃焼の発展、伝統工芸の継承を意図し、地域文化の高揚と業界の技術振興に寄与することを目的としています。毎年地元で活躍している美濃陶芸家の優秀作品を購入し、それを岐阜県陶磁資料館で展示しています。現在までに永年保存作品として40点、特別永年保存作品として18点の合計58点が集められています。渡邉理事長は、「ものがあふれている現代においてこそ、人が真似できないものを作りそれを後世に残していく必要性がある。また、この事業はものづくりの産地として、焼き物があるかぎり続けていきたい。」と語られました。今後観光という切り口から産業を見直し、地域産業の活性化を図っていきたいとおっしゃっていました。

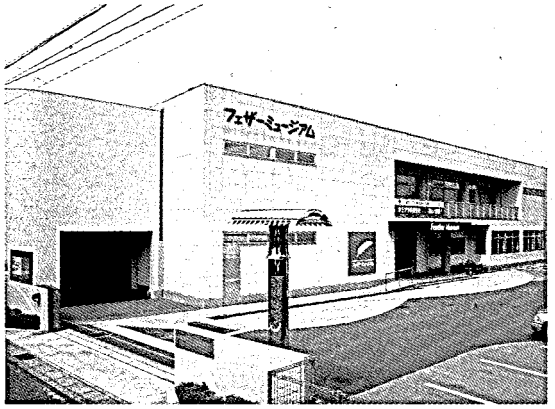


「地元陶芸家の作品と渡邉勝利理事長」
（機関紙委員 (財)土岐市埋蔵文化財センター 中嶌 茂）

館・園紹介　No133

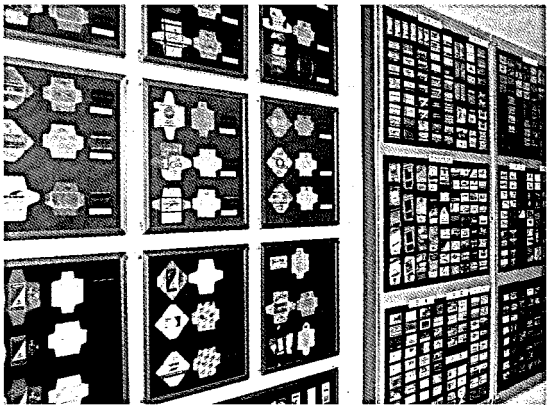
カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアム

〒501－3941　関市日ノ出町1ノ17番地
TEL／FAX：0575－22－1923
http://www.feather.co.jp
e-mail: f-museum@titan.ocn.ne.jp



昭和７年、フェザー安全剃刀株式会社は刃物の街、関でカミソリの生産を始めました。創業以来、フェザーが収集してきたカミソリや理美容に関わる資料は１万点になります。平成12年、これらの資料をもとにカミソリの価値や歴史を広く普及する目的で、カミソリ文化伝承館・フェザーミュージアムが新工場の一角にオープンしました。

展示コーナーは17あり、ひげと剃刀にかかわる文化をさまざまな視点から体験できるように構成しています。創業時からの自社製品、世界中の替刃の包装紙、古い剃刀の製造機械など他では見ることができない資料の数々に圧倒されますが、リンカーンなどひげ面で有名な歴史上の人物のひげを剃ったり、パソコン上で自分の顔にひげをつけるなど、遊び心をくすぐるブースもあり、飽きることがありません。最近、生産量が増えている医療・病理の現場で使用される特殊な刃物、ポテトチップス用のジャガイモを削る剃刀も興味深い資料です。また、理美容業界への進出をきっかけに、全国の床屋から寄贈されたサインポール、刃物などの道具類が所狭しと展示され、ちょっと前の床屋の雰囲気をほのぼのと再現しています。



フェザーミュージアムの周辺には、岐阜県刃物会館や関鍛冶伝承館があります。関市の重要な観光拠点のひとつになっており、県外の来館者も多く、特に10月の第２土曜と日曜の２日間にわたり開催される刃物まつりには、大変な賑わいになります。

【交　通】・東海北陸自動車道「関IC」から車で10分。
・名古屋駅より高速バス「美濃・関線」で「栄町1丁目」バス停下車、徒歩10分。
・名鉄岐阜駅より岐阜バス「岐阜上之保線」で「本町5丁目」バス停下車、徒歩5分。
・長良川鉄道「刃物会館前」駅下車、徒歩3分。

【駐車場】無料

【開館時間】9:30～16:00（最終入場時間）
団体の方はあらかじめお問い合わせください。見学時間は約40分です。

【休館日】毎週火曜日

【入館料】無料

（機関紙委員　岐阜県博物館　説田健一）